

# 効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
令和元年度	市単	赤目四十八滝「忍者・自然・精神」ニューツーリズム			観光交流室
事業実績額(円)		29,990,700			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元氣創造プロジェクト			
	基本的な方向	地域産業を担う人材の育成/地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出/自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進/シティプロモーションの展開			
	具体的な施策	「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現			
事業期間		令和元年度～令和3年度			
事業の目的		<p>『忍者・自然・精神』をテーマに、国内はもとより、欧米系外国人をターゲットにしたニューツーリズムの創造と実践に取り組みます。新たなコンテンツと既存の観光資源を融合させ、滞在型の「学術研究フォーラム」の開催や「忍者塾」の開講、「忍者修行体験ツアー」など、本市特有の滞在型・体験型の観光商品の造成と観光誘客に取り組みます。</p> <p>また、旧旅館跡の未利用部分を「なばり忍者ミュージアム」として改修し、修験道や忍者を歴史カルチャーに展示するほか、研修施設としての機能や、バーチャル忍者体験の道場としての機能も整備し、『忍者・自然・精神』ニューツーリズムの発信拠点としての役割を担います。</p>			
全事業期間における本年の位置づけ		初年度には、まず有識者等を招へいた学術研究会での調査研究と意見交換とともにマーケティング調査を進め、コンテンツづくりに取り組みます。下半期には、新たなコンテンツのプロモーションと、本事業の取組拠点となる「(仮称)なばり忍者ミュージアム」の第一期整備工事に着手します。			
重要業績評価指標 (KPI)	指標		基準値 (H31.3)	R元年度目標値	R元年度実績値
	赤目四十八滝への延べ入込客数		130,000人	前年比 6,000人増	△13,305人
	赤目四十八滝を訪れた外国人の延べ数		2,500人	前年比 500人増	721人増
	赤目四十八滝エコツアーデスクでの体験メニュー利用者の延べ数		9,000人	前年比 200人増	△2,532人
	「(仮称)なばり忍者ミュージアム」への延べ入館者数		0人	0人	200人増
令和元年度の取組概要		3月に「赤目自然歴史博物館」をオープン、そのオープニングイベントとして企画展示「赤目に生きた忍者たち」 「修験・悪党・忍者」の地を訪ね歩くウォークイベントを開催。また、赤目渓谷の学術調査を経て、新たな体験プログラム「ガイドと歩く苔散歩」の商品化などを行った。			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和2年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外からの移住者20代男性独身のアンケートで、「自然にあふれ都会では体験できないようなことが身近にあり、赤目滝は忍者の文化にも触れることができ、キャンプなどのアウトドアもおすすめ」「バスフィッシングも楽しめる」「関西圏に近いというアピールポイント」といった回答があった。名張市の強みとして紹介したい。</li> <li>・西三重で見たときに、名張市が中心となっていけるようプラットフォームづくりが必要ではないか。</li> <li>・コロナ禍で旅行業界が影響が大きく、とくに外国人誘致が大きなダメージを受けている。国内需要も非常に重要であり、今後は遊ぶための観光だけでなく、最終的に移住定住につながるような展開も必要。</li> <li>・ふるさと納税の返礼品にしても、名張特有の変わったものとか珍しいものなどで、皆さんが食いつくようなものをアピールして、どのように発信していくかが重要。また口コミの影響は大きいので、市民の満足度を高めることで市民一人ひとりが名張市の営業マンになってくれると思う。</li> </ul>			
結果の公表		令和2年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		有 ・ 無 （ 時期 : 令和2年8月 ）			
総合評価		地方創生に非常に効果的であった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			